

**栄養学・薬学・医学・歯学・看護学・リハビリテーション学グループ
分野連携アクティブ・ラーニング対話集会 開催要項**
オンライン開催

1. 開催趣旨

日本は世界の中で成長力、競争力、デジタル化など多くの分野で地盤沈下を起こしており、危機的な状況にあります。その源泉の多くは人材の育成にあるといっても過言ではありません。

今、国・社会が大学教育に求めているのは、生涯に亘って未知の時代を切り拓いていく力を備えた人材の育成であり、学生一人ひとりが自分の考えをもって主体的に関わっていくよう訓練する仕組みを創り出していくことではないかと考えます。

「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)」で指摘の通り、学修者本位の教育への転換、ニューノーマル社会における質の向上を目指した対面と遠隔を組み合わせた新しい学びの創出、学修成果の質保証に向けた対応が急がれており、ICTを大胆に取り入れる中で、教育改善・学修支援への変革が進みつつあります。デジタル化が目的ではなく、それを手段として活用し、学修者一人ひとりに配慮した教育の仕組み、学びの自由度や学修意欲を高める工夫を通じて、学生に最良の学びの場を如何にして開発・提供していくかが喫緊の課題となっています。

そのような観点から本対話集会では、ICTを活用した学びの個別最適化への取組み、対面と遠隔を効果的に組み合わせたハイブリッド授業やPBLの取組みを如何にデザインし、問題発見・課題設定解決型教育を推進していくべきか、学修環境も含めて探求し、改革行動につなげていく場としました。

2. プログラム

(1) 開催趣旨の説明

(2) ICTを活用したアクティブ・ラーニングの話題提供

① 栄養学分野

「発言者を匿名にすることで、対話型双方向授業を活発化する試み」

双方向授業を実施しようとしても、学生間でアクティビティに大きな格差が生まれ、一方通行的になりつつある現状を転換すべく、発言をテキストメッセージで送るようにし、その発言を匿名化して共有する方法を実践したところ、普段発言しない学生の発言も促すことができ、多くの質問・意見を得ることに成功した双方向授業の活発化を実現した授業改善の取組みを紹介します。

中京学院大学短期大学部健康栄養学科准教授 由良 亮 氏

② 薬学分野

「コロナ禍における薬学部での遠隔授業への対応と学生の反応」

教員には遠隔授業の授業構成の準備と配信教材の作成、学生への周知方法などの情報提供とLMS等による遠隔授業の準備講習会を実施した。学生には特に新入生に対して薬学部との繋がりを意識できるように実施したWeb経由でのオンラインクラス会、授業を通じた支援などの取組みを、当時行った学生アンケートの結果と併せて話題提供します。

慶應義塾大学薬学部准教授 石川 さと子 氏

③ 看護学分野

「小児看護学のシミュレーション教育におけるVRの効果的活用の試み」

学生がリアルに子どもと家族の状況や小児病棟内の環境、医療スタッフの関わりをイメージし、看護実践を自主的に考えることができる教育方法として、VR技術(仮想現実)を活用したシミュレーション教材を開発して2022年度より演習に導入した。学生からは、子ども目線の体験により、状況のイメージが深まり理解に繋がったとの意見が多く、学修効果が見られたことから、VR演習を講義と看護実践と連動させることによる教育改善の可能性を紹介します。

東京慈恵会医科大学医学部看護学科准教授 永吉 美智枝 氏

④ 医学分野

「フルオンラインによる生理学実習の試み」

Zoom及びgoogle slidesを用いたフルオンラインで、グループ活動に重点を置いた生理学実習(神経の活動電位)を実施した。実験前にzoomのブレイクアウトルーム機能及びgoogle slidesを活用して実験結果を予測させ、その結果を教員に説明させます。実験後も両ツールを活用してデータ整理を行い、実験結果を教員に報告させるとともに、グループ間で振り返りを行うことにより、対面の実習と同じように理解を深めることができた授業改善の工夫を紹介します。

埼玉医科大学医学部IRセンター教授 椎橋 実智男 氏

⑤ 歯学分野

「チーム基盤型学修(TBL)とグループワークを組み合わせた反転授業の取り組み」

自己主導型学修力の涵養、協働能力や省察的な態度を育成するため、3年歯科栄養学(7回)を全て反転授業とし、TBLでは協働による知識獲得・定着のための準備確認問題と知識構築に焦点をあてた応用問題を演習し、症例検討のグループワークでは栄養アセスメントを実施した。さらにミニツッパーパー提出とフィードバックを行い、全授業終了時に学びの改善策を記したポートフォリオを作成させることで、知識の獲得と協働能力、省察力を向上した授業改善を紹介します。

大阪歯科大学歯学部生化学講座教授 池尾 隆 氏

⑥ 医学・歯学・薬学・看護学・健康医療科学・栄養学・情報コミュニケーション学分野連携

「各専門領域を超えた分野横断型遠隔授業の実践」

問題解決力養成を目標とした分野横断型の遠隔授業を実施するため、医療・福祉・栄養・情報コミュニケーション7分野の学生がZoomによるテレビ会議とLINEで意見交換し、「コロナ禍時代の持続可能な医療・健康生活を考える」をテーマに5回の分野横断型遠隔授業を実施した。命や生活を守る医療、健康増進を実現するために各分野で対応すべき課題と対応策、解決策の発表と講評・振り返りを行った結果について、通常の授業では経験できない体験の成果と問題点を報告します。

昭和大学歯学部歯科医学教育推進室主任教授 片岡 竜太 氏

(3) 意見交流

① ICTによる学びの個別最適化の工夫、ハイブリッドによる学修の質・効果を高める授業(反転授業PBL等)の工夫と課題

* 遠隔授業の質を担保する方略、対面と遠隔を効果的に組み合わせた反転授業の普及に向けた対策などを中心に議論します。また、学外の学生・有識者を交えた問題発見・課題設定解決型授業(PBL)の理解促進策も予定しています。

② ハイブリッドな学修プラットフォームに必要な機能の強化対策、授業価値の最大化に向けたFD対策の在り方

* DX化に伴う学修支援の環境整備、ICTスキル支援体制の強化、FDによる質保証のコンセンサス作りなどの観点で議論を予定しています。

③ ネット上で多分野の知識を組み合わせ、知の創造を訓練する実験授業のニーズ

* 授業の自前主義からの脱却を如何にすすめるかなど、教育のオープンイノベーションのニーズ促進など理解の共有を予定しています。

④ PBLで獲得する思考力等の点検・評価・助言モデル構想の実現可能性

* 「考える力」の達成度を点検・評価・助言するモデル構想のニーズ、実現可能性・課題について議論を予定しています。

4. 参加対象者：国・公・私立大学の教員、職員、授業補助学生(TA・SA)など

5. 開催日時：令和5年1月21日(土) 13:00~17:00

6. 会場：オンライン(Zoom使用)による開催とします。なお、申込者には、対話集会視聴方法等について、申込書に記入いただいたアドレスに1月17日(火)にメールでお知らせします。

7. 定員：200名(先着順で受け付けます)

8. 参加費：無料

9. 資料の配信

話題提供の「発表資料と発表映像」を以下のページに掲載します。(1月14日~1月21日予定)

<https://www.juce.jp/senmon/active/>

申込者は、受付後お知らせする「参加IDとパスワード」を入力することでご覧になれます。

10. 参加申込

別紙申込書に必要事項とアンケートを記入の上、メール添付又はFAXにて**令和5年1月13日(金)までに**申し込み下さい。申込締め切り後でも受け付けることがありますので、事務局に問い合わせ下さい。

メール送信先：info@juce.jp

FAX送信先：03-3261-5473

TEL：03-3261-2798

11. その他

1月21日(土)終了後、参加者には1月25日(水)から30日(月)の6日間、対話集会の開始から終了までの録画を閲覧できるようにします。また、意見交換による課題等の整理は後日、改めて文章で本協会のWebサイトに掲載する予定にしています。